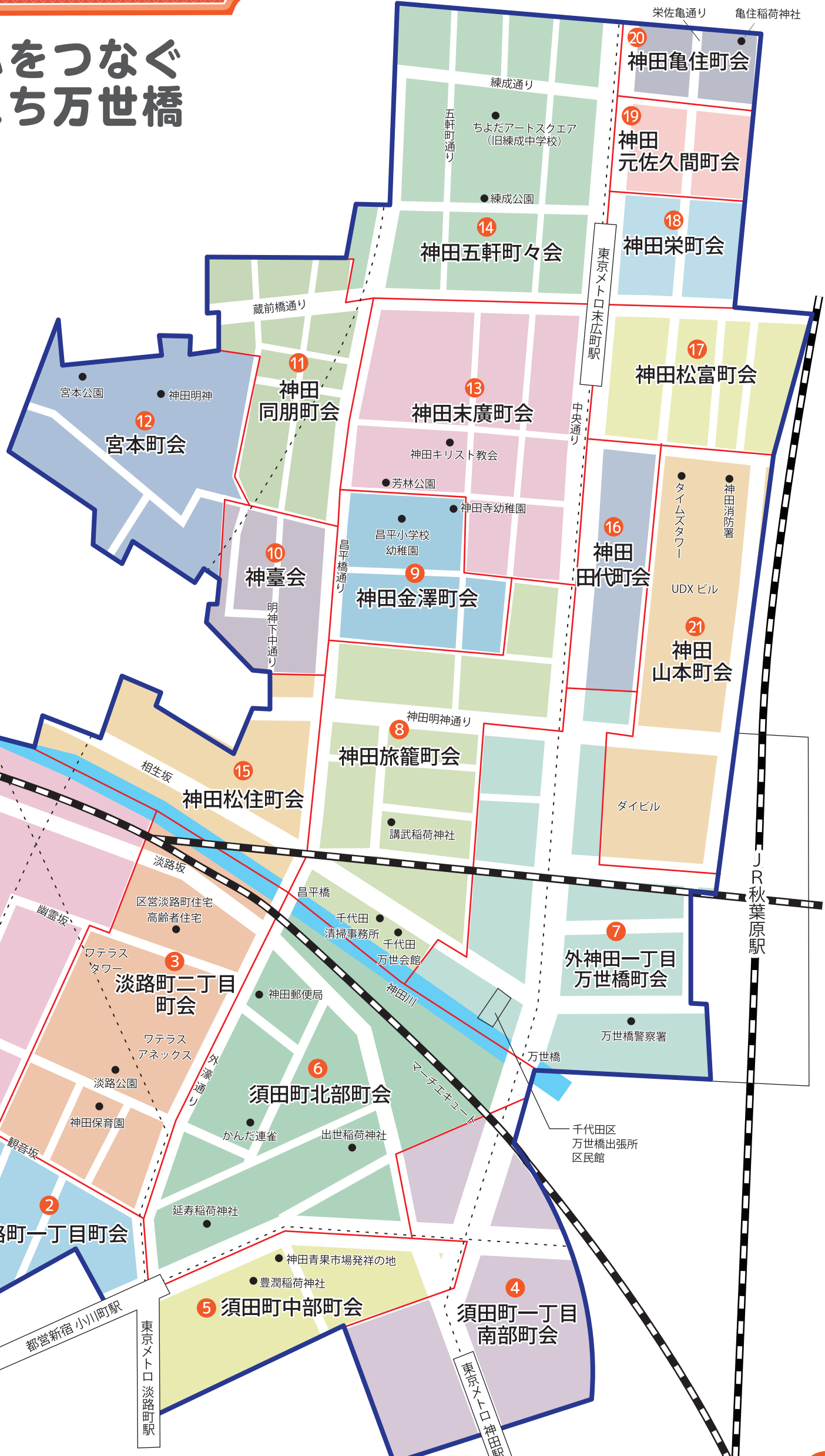



万世橋地区 マップ

川と橋と坂が心をつなぐ
わたしたちのまち万世橋

あなたのお住まいを管轄する
千代田区の出張所は・・・
万世橋出張所です！
住所 〒101-0021 外神田一丁目1番13号
電話 03-3251-4691

町会 区域 住所	
①	神田駿河台三丁目、四丁目（5番地除く）
②	神田淡路町一丁目奇数番地
③	神田淡路町二丁目1～29までの奇数番地、101～116番地
④	神田須田町一丁目5・7・16～34までの偶数番地
⑤	神田須田町一丁目2～14までの偶数番地
⑥	神田須田町一丁目1・3・9～25までの奇数番地・神田淡路町一丁目2・4番地、 神田淡路町二丁目2～12までの偶数番地
⑦	外神田一丁目1番8～14号、4番9～17号、2・10～17番、外神田四丁目1番
⑧	外神田一丁目1番5～7号、4番1～8・18～23号、3・5～9番、外神田三丁目1・12・13番
⑨	外神田三丁目2・3・4・11番
⑩	外神田二丁目5番2～12号、6～9番（7番1号、4号一部除く）
⑪	外神田二丁目10～15番、外神田六丁目1・2番、3番3・4・7・8号
⑫	外神田二丁目16～19（7番1号、4号一部含む）
⑬	外神田三丁目5～10・14～16番
⑭	外神田六丁目3番5・6号、4～16番
⑮	外神田二丁目1～4番、5番1・13～15号
⑯	外神田四丁目2～5番
⑰	外神田四丁目6～13番
⑱	外神田五丁目1・6番
⑲	外神田五丁目2・5番
⑳	外神田五丁目3・4番
㉑	外神田一丁目18番、外神田四丁目14番




 千代田区役所ホームページ
 万世橋出張所地域

万世橋地区 スポット

川と橋と坂が心をつなぐ
わたしたちのまち万世橋

町会名	名所	歴史
1 駿河台東部町会 旧：袋町・南北甲賀町・東紅梅町・鈴木町	●ニコライ堂	駿河台の由来は、遠く駿河国の富士山を遠望できたこと、元和二年（1616年）家康が駿府で没すると、家康付を解かれた幕臣が屋敷を賜ったこと、二代將軍徳川秀忠の次男徳川忠長（通称駿河大納言）の屋敷があったためなど諸説がある。
2 淡路町一丁目町会 旧：神田淡路町一丁目	●淡路坂上観音	聖橋の南詰から神田川沿いを神田淡路町二丁目にくだる坂は、対岸の昌平坂と併称して相生坂の名があり、大坂とも呼ばれた。また鈴木淡路守の屋敷があったので淡路坂とも呼ぶようになった。明治五年昌平橋内の備後福山藩阿部邸・豊後府内藩松平邸跡地にできた町で、町名は淡路坂にちなむ。
3 淡路町二丁目町会 旧：神田淡路町二丁目	●開成学園発祥の地 ●フテラス（一部旧淡路小学校・幼稚園跡）	
4 須田町一丁目南部町会 旧：通新石町（とおりしんこくちょう）		
5 須田町中部町会 旧：連雀町・佐柄木町	●豊潤稲荷神社	明暦三年（1657年）の新添江戸図に「新石町（しんこくちょう）」とある。公役町で里俗に馬鞍横町と称した。
6 須田町北部町会 旧：連雀町	●甲武鉄道万世橋駅跡（現マーチ・エキュート） ●出世稲荷神社 ●延寿稲荷神社	神田市場発祥の地
7 外神田一丁目万世橋町会 旧：神田花田町・神田仲町一丁目、二丁目 神田花房町		慶長年間に町割が行われる以前は須田村と称す。「寛永江戸図」には「すた丁」とある。町名は洲にひらかれた田の意と言われ、一帯を呼ぶ地域呼称でもある。当地は日本橋から本郷へ抜ける中山道（現中央通）と、神田橋から上野広小路方面に通じる道が交差し、さらに柳原通・昌平橋・淡路坂などの八方面に通じる交通の要衝であった。
8 神田旅籠（はたご）町会 旧：神田旅籠町	●講武稲荷神社	秋葉権現（神社）の境内に花畑があったことから花房町の名が付いたらしい。 ※司馬遼太郎「街道をゆく」の記述から。
9 神田金澤町会 旧：神田金澤町	●芳林（ほうりん）塾跡地（旧：芳林小学校・幼稚園） （現：昌平小学校・幼稚園）	町名は昌平橋外河岸通りに町屋があった当時、板橋・川口両宿に向かう街道筋にあたり、宿屋が多く集まっていたことによる。天和二年（1682年）火事で類焼し、翌年御用地となったため加賀金沢藩中屋敷跡地に替地を与えられた。
10 神臺（じんだい）会 旧：神田臺所町		元湯島一丁目（現文京区）のうちにあった町屋が天和三年（1683年）火事により類焼し、翌四年御用地となったため加賀金澤藩中屋敷跡地内に代地を与えられた。
11 神田同朋（どうぼう）町会 旧：神田同朋町		明暦三年までは日蓮宗妙祐山幸龍寺と曹洞宗泰平山万隆寺領だったが、大火後、寺は浅草田圃に移転。その跡が臺所・賄方組屋敷・武家地となった。寛文十二年町方支配となる。明治二年西側の御勝手代屋敷を合併し、神田臺所町と改称した。
12 宮本町会 旧：神田宮本町	●神田明神	正保年中は万徳治・高岩時・雲仙寺などがあったが、明暦三年の大火後は引地となり、同四年同朋衆に与えられ、山口栄立・竹内裕二など御坊主方の拝領地となった。寛文十二年町屋が許可され、御同朋町（おどうぼうちょう）と称し、町方支配となる。
13 神田末廣（すえひろ）町会 旧：神田末廣町	●末廣神社跡	明治二年神田明神門前町に、神田明神表門前・同裏門前・神田明神西町が合併し、同五年神田明神地、書籍館（現文京区湯島一丁目：江戸時代の昌平坂学問所）敷地を編入して成立した。
14 神田五軒町々会 旧：神田五軒町	●ちよだアートスクエア（旧練成中学校）	明治二年火災による町屋代地7ヶ所が合併して成立。明治五年武家地11ヶ所（一説には18ヶ所）が統合し現在に至る。明治元年の上野戦争により町が被害を受けたため平和に繁栄するようにと、末廣（すえひろ）と云うめでたい町名をつけた。
15 神田松住町会 旧：神田松住町		播磨林田藩建部氏・安房勝山藩酒井氏・信濃上田藩松平氏・下野黒羽藩大関氏・上総久留里藩黒田氏の5屋敷があり、これが、由来となり、明治五年に神田五軒町と称した。
16 神田田代町会 旧：神田田代町		明治五年、それまでの湯島横丁を縁起を担ぎ松住町と改称した。昭和八年に昌平河岸を編入した。
17 神田松富町会 旧：神田松富町		須田町二丁目代地・小柳町三丁目代地・松下町一丁目代地・花房町代地・用達商人染物屋伊佐衛門拝借地・樽屋三右衛門拝領屋敷を合併して成立した。町名は江戸期に一帯を神田代地と総称していたことにちなみ、田・代をとってつけられた。
18 神田栄町会 旧：神田栄町		神田松下町二丁目北側代地・同三丁目北側代地・永富町三丁目代地を合併して成立した。町名は合併町名の松下町と富永町の一字をとった。当地は古くは幕臣五人の居宅であったが、元禄十一年から享保七年まで岩城伊代守の屋敷があった。
19 神田元佐久間町会 旧：神田元佐久間町		明治二年から四年に、神田竹町・神田松永町・神田平河町一丁目代地の替地を合併して成立した。古くはと徒士組大縄地で、元禄十年から明治二年まで播磨安志藩中屋敷だった。町名は住民が町の繁栄を祈願してつけられたと言われています。
20 神田亀住町会 旧：神田亀住町	●亀住稲荷神社	明治二年に、神田佐久間町一丁目・神田柳屋敷を播磨安志藩小笠原氏の上屋敷跡地に移し、神田佐久間町と区別するため「元」を付け、新しく神田元佐久間町と称した。
21 神田山本町会 旧：神田山本町	●ダイビル ●UDXビル	明治二年に、神田八軒町・神田六軒町・柳原大門町・上野町代地の替地が播磨安志藩小笠原氏の上屋敷跡地に与えられ、末永く生活できる場であってほしいとの願いを込めて神田亀住町と名付けられ、新しく町を設立した。
		平成元年に閉鎖されるまで東京都の青果市場として賑わい、閉鎖された後区画整理により現在の街並みとなった。当町会は平成十九年に設立し翌二十年に連合町会に加入した。区域内には、高層マンションの東京タイムズタワーと新築された神田消防署がある。